

2025年10月16日

「資本コストを上回る収益率の実現」の方策を具体的に説明

— I R 優良企業賞 2025 第1次審査の集計結果より —

一般社団法人日本IR協議会（会長：手代木 功 塩野義製薬株式会社代表取締役会長兼社長 CEO）は現在、IR優良企業賞2025の審査を進めています。今年は、日本IR協議会の会員企業のうち371社がIR優良企業賞2025に応募しました。

本リリースは、応募企業371社の「調査票」に基づく第1次審査の集計結果を参考までにご報告するものです。IR優良企業賞は、IRの趣旨を深く理解し、積極的に取り組んでいる企業を表彰するもので、3段階の審査を経て決定します。最終審査の結果は、11月中～下旬に発表する予定です。

【調査結果の概要】

（1）IRのミッションは「株主・投資家との信頼関係の構築」

応募調査票のQ1に、「会社としてIRのミッションや目標を設定し、明文化していますか」という問いを設けている。「はい」の回答は応募企業371社中364社で、割合は98.1%に達した。具体的な目標として15ある選択肢（複数選択）のうち最も高い割合を占めたのは「株主・投資家との信頼関係の構築」で97.5%（355社）となった。「企業・事業内容の理解促進」がほぼ同じ水準で96.2%（350社）、次いで「適正な株価の形成」の95.9%（349社）となった。これらの上位項目は例年ほぼ変わりはないが、「適正な株価の形成」の割合が前年から4.2ポイント上昇。変化率が大きいところでは「株式売買高の増加」が前年の43.7%から52.7%と、9ポイントの上昇となった。

（2）経営トップが決算説明会に登壇する割合は98%、個人向け説明会は3割程度にとどまる

経営トップ（社長またはCEOに該当する経営者）が各種IR活動にどの程度関与しているのかをたずねた。「国内での決算説明会」や「アナリスト・投資家との面談」には高い出席率となったが、「個人投資家向け説明会」は34.8%にとどまっている。「経営トップが投資家の意見を聞くなどの目的でIR部門の責任者と会議する機会を設けていますか」については「はい」の回答が98.9%（367社）にのぼった。

（3）「資本コストを上回る収益率の実現」に向け、具体的に説明する動きが加速

中長期的な企業価値向上を目指す取り組みについて、どのような姿勢で対話をしているかをたずねたところ、「資本コストを算出し、それを上回る収益率の実現に向けての方策を具体的に説明」が8割を超えた。「中期的な資金配分方針の表明」も86%と、その割合は年々増加している。

（4）日英同時開示が8割強、他部署との連携も広がる

東証プライム市場の上場会社は、日本語による開示と同時に英語による開示が義務化された。本調査の対象はプライム上場以外の上場企業を含んでいるが、前回と比較して日英同時開示の割合は73.8%から85.2%と11.4ポイント上昇した。また「他部署が企業価値向上に関心を持ち、IRに関与することを目的にした研修や勉強会、報告会を行っていますか」では「はい」の回答が79.2%（294社）だった。

（5）IR活動において強調したい点、昨年度と比べて力を入れた点

IR活動において注力した点については、「スモールミーティング、面談強化（件数増加、内容補強）」に取り組んだ企業が多かった。前回との比較では、「海外IRの実施・海外投資家対応の強化・海外事業所の見学会」の割合が22.5%→26.7%に増加。また「経営陣へのフィードバック」は18.0%→21.3%、「従業員向け社内IR・社員向け説明会・他部署との連携」が11.8%→17.5%とそれぞれ増加した。

本件に関するお問い合わせ

一般社団法人 日本IR協議会

電話：03-5259-2676 FAX：03-5259-2677

*日本IR協議会とは：1993年設立。IRの普及を目的とする非営利団体。2025年10月1日現在の会員数は724社で、研修活動、情報発信活動などを行っている。2010年4月1日より一般社団法人へ移行。

URL：<https://www.jira.or.jp/>